

小樽商科大学 地域広報誌

# Hermes Courier

2004.11

第9号

ヘルメス・クーリエ



大正12年に行われたフランス語劇「青い鳥」。右端が小林多喜二、となりが伊藤整、左端が高浜年尾。



マッキンノン教師  
[在職期間1917 - 1942. 英語担当]

## 小林多喜二、 伊藤整の時代から 外国語教育を重視

小樽商科大学が外国語教育に力を入れているのは、最近始まったことではありません。小林多喜二や伊藤整が在籍していた大正時代から、多くの外国人教師が本学の教壇に立っていました。

その頃、小樽の街でも有名だったマッキンノンという教師がいました。伊藤整は著書『若い詩人の肖像』のなかで、このアメリカ人教師のことを次のように書いています。「マッキンノン教師は、日本人を妻として、もう何年もこの町に住みついている、長身で金髪で、マーク・トウエーン の肖像よりいくらか小さいが、かなり大きめの口ヒゲを生やし、その顔は若々しい童顔であった。彼はほとんど半帰化人としてこの町に住んでいたのである。」

またその頃、外国語教育の具体的な成果の場として、年末には英語、フランス語、中国語、ロシア語、ドイツ語などの外国語劇の発表会が行われ、大勢の市民が観に訪れました。大正12年には、フランス語劇「青い鳥」に3年生の小林多喜二と2年生の伊藤整が出演。そのことも伊藤整は、『若い詩人の肖像』のなかで、「私には言うためのセリフが一言もなかった。しかし、私はこの芝居の仲間入りするのが大変うれしかった。ポプラだとか糸杉だとか牛だとか色々な動植物になる役者が二十人ほどいる中に、高浜年尾と小林多喜二が入っていた」と書いています。

高浜年尾は高浜虚子の息子

CONTENTS

特集：国際交流

シリーズ先生紹介 / 中村 秀雄 教授  
ビジネススクール授業内容のご紹介  
INFORMATION